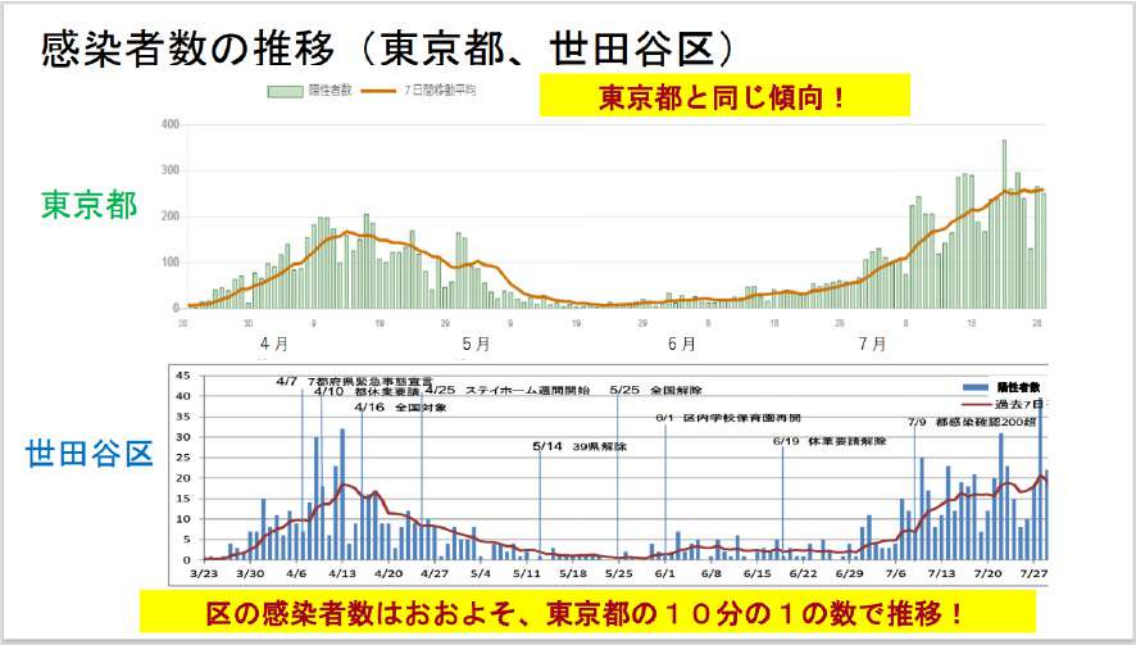
「PCR 検査数一桁増やす　保坂展人東京都世田谷区長が感染第２波対策発表」

東京都内でも新型コロナウイルス感染者が多い世田谷区の保坂展人区長が 4 日、日本記者クラブで記者会見し、早急に PCR 検査数を現在より一桁増やすなど今後の感染拡大に備える方策を明らかにした。保坂区長は「自分の持ち場だけやっていればよいという日本社会の縦割り構造で対応している限り、PCR 検査数が増えることはない」と政府のこれまでの対応を批判し、「いつでも、どこでも、何度でも」できる PCR 検査体制の構築を目指す強い意欲を示した。

新型コロナウイルス感染に対する新しい取り組みについて語る保坂展人世田谷区長（テレビ会議システム配信動画から）

世田谷区は、東京都の人口の 6.8%、東京都 23 区では約 10 分の 1 にあたる約 92 万の人口を抱える。新型コロナウイルス感染者の累計は 8 月 4 日時点で 1,131 人。この数は東京都全体の感染者総数の 8.1%、日本全体の感染者数の 2.8%に相当する。1,131 人のうち、死者は 18 人、入院中 129 人、宿泊療養中 111 人、すでに退院あるいは療養期間終了者 819 人となっている。

保坂区長は、4 月の初・中旬に最初のピークがあり、いったん減少した後、7 月半ばごろから再び増加に転じている感染者数推移グラフを示し、「東京都全体と同じ傾向」にあることを明らかにした。

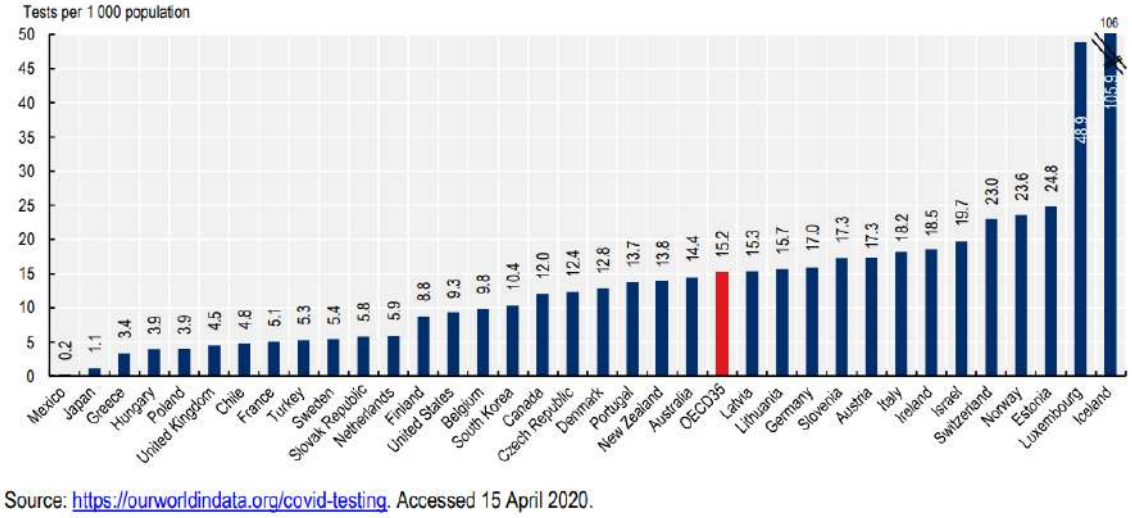


（保坂展人世田谷区長記者発表資料から）

保坂区長は、7 月に入って感染者が急拡大していることについて、接待を伴う区外の飲食店で若者が感染しているケースと、家庭内感染や職場内での感染が増加していることを重視している。飲食店での会食に加え、職場や自宅で過ごす時間が増えたことによるとみている。職場での感染については、特に区内の高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設など 13 施設で働く職員から 21 人の感染者が出ていることを把握済みだ。さらに医療現場の状況を知るための「医療機関情報連絡会」を 3 度開催するなど、医療機関との連携を強める対策も実施していることを紹介したうえで、今後、力を入れる取り組みを明らかにした。

保坂区長が特に重視しているのが、PCR 検査数の大幅な増加。日本の PCR 検査数が極端に少ないことは国内外で周知の事実となっている。4 月 16 日に公表された経済協力開発機構（OECD）の報告書によると、4 月 15 日までに日本で PCR 検査を受けた人は人口 1000 人当たり 1.1 人。日本より少ない OECD 加盟国は 0.2 人のメキシコだけで、OECD 加盟国平均の 15.2 人よりもはるかに少ない。厚生労働省によると、現在、日本の PGR 検査数は 1 日当たり約 2 万 6,000 件。OECD の報告書が公表された 4 月中旬の 1 日の PCR 検査数は 4,000~8,000 程度だったのに比べると件数は増えている。しかし、安倍晋三首相が早い段階から PCR 検査数の増加を唱えている割には、大幅増とは言えない。

OECD 諸国の PCR 検査実施人数（4 月 15 日まで、人口 1,000 人当たり）



Source: https://ourworldindata.org/covid-testing. Accessed 15 April 2020.

（OECD 報告書から）

PCR 検査については、政府が最初に設置した「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」自体が PCR 検査数拡大を最初から求めていなかったことが明らかになっている。同専門家会議が２月 24 日に公表した「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針の具体化に向けた見解」の中には、「37.5 度の体温が４日続く」という検査基準が明記されている。これが、PCR 検査の数を抑える大きな理由となったのは明らかだ。「設備や人員の制約のため、全ての人に PCR 検査をすることはできない。急激な感染拡大に備え、限られた PCR 検査の資源を重症化の恐れのある方の検査のために集中させる必要がある」。この見解には、このように最初から検査数の大幅増をあきらめている記述もある。

「既存の感染症に対する法体系の中では、症状がある疑いのある人しか検査できないようになっている。元気な人から他人に感染することもある新型コロナウイルスのような感染症に対しては発想の転換が必要。にもかかわらず決断できずにいる」。保坂区長は、政府の取り組みを厳しく批判し、区独自の PCR 検査数拡大を決断した経緯を明らかにした。

保坂展人世田谷区長記者会見の様子（テレビ会議システム配信画像から）

区の取り組みは 2 段階となる。まず、区が世田谷保健所に加え、地元医師会である世田谷区医師会と玉川医師会の協力を得て現在、一日当たり 363 件にまで増強してきた検査能力をさらに 1 日当たり 603 件にまで増強する。ただしこれでは今後の感染拡大に対応するのは不十分なため、できるだけ早く、現在より一桁多い 1 日当たり 2,000～3,000 件に増やす、としている。

一挙に検査数を一桁増やすために新しい手法が採用される。最初から一人一人の検体を検査するのではなく、まず 5 人分の検体をまとめて検査するという方法だ。陰性であれば全員陰性とみなす。陽性と出た場合のみ、5 人の検体を一つずつ検査し、陽性者を割り出す。こうした手法を取り入れることで検査作業の大幅な効率化が図れる、と保坂区長は強調している。

抗体検査と PCR 検査、抗原検査を組み合わせた大幅な検査拡充策を提言する児玉龍彦東京大学名誉教授（7 月 3 日日本記者クラブ）＝YouTube 会見動画から

日本の PCR 検査数が極端に少ないことを早くから批判している一人に、児玉龍彦東京大学名誉教授がいる。ただし児玉名誉教授は、PCR 検査を単に増やせばよいと主張しているわけではない。現在のように PCR 検査の数を絞ることはせず、精密抗体検査法と呼ばれる抗体検査と PCR 検査、抗原検査を組み合わせた手法により検査対象者を大幅に増やし、感染者を正確かつ効率よく把握する必要を提言している。

7 月 3 日に日本記者クラブで開いた記者会見では、次のように語っている。「感染拡大が分かっている場所では、大規模な PCR 検査や抗原検査を実施する。感染が集積していないように見える場所では、まず精密抗体検査で、感染者が多い場所や感染者が多い職種を見つけ出す」。児玉名誉教授は、慶應義塾大学、京都府立医科大学、大阪大学、東京都医学総合研究所、東京大学先端科学技術研究センター、東京大学アイソトープ総合センターの 6 機関が協議会をつくって進めるプロジェクトのアドバイザー会議代表も務める。抗体検査が新型コロナウイルス感染症の診断と重症度判定に有効であること明らかにするのが、プロジェクトの第一の目的だ。

保坂区長は、PCR 検査拡大方策が児玉名誉教授の提言によるものであることを明らかにした。感染の疑いがある人たちを対象とした既存の PCR 検査を拡充することに加え、社会的検査という考え方に沿った PCR 検査の大幅な拡充が必要という提言だ。区内の医療機関や、高齢福祉、障害福祉、児童福祉施設などで働く人たちに定期的に PCR 検査を実施し、これらの施設が感染の発火点になることを防御する、と保坂区長は一日当たり 2,000~3,000 人の検査が可能になった時点の活用法を明らかにした。

保坂区長は、教育ジャーナリストとして活動したのち、1996 年から衆議院議員（社会民主党）を 3 期務めた。2011 年の世田谷区長選挙で初当選し、現在、3 期目。

日文　小岩井忠道（JST 客観日本編集部）

関連サイト

日本記者クラに会見リポート「『新型コロナウイルス』自治体の奮闘　保坂展人世田谷区長」

https://www.jnpc.or.jp/archive/conferences/35689/report

同「YouTube 会見動画」

https://www.youtube.com/watch?v=VsypwabCEWo&feature=youtu.be

関連記事

2020 年 07 月 13 日「【新型肺炎】儿玉龙彦：推断日本的感染人数是公开的 10 倍以上，交叉免疫让日本人对新冠病毒呈现的免疫力较高」

https://www.keguanjp.com/kgjp_keji/kgjp_kj_smkx/pt20200713000004.html